

みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 金高 雅仁
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>



盲導犬くらぶ

世界レベルの
盲導犬育成への



国際盲導犬連盟の
定期査察に
合格しました!

昨年11月、国際盲導犬連盟による5年に1度の定期査察が行われました。写真は、査察員として来日したヴァネッサ・ライエンズ氏が、富士ハーネスの子犬棟で協会職員と一緒に母犬の授乳の様子を見学しているところ。犬たちの健康面や生活環境への配慮が、動物福祉の観点から特に評価されました(5ページへ)

TOPICS!

主なできごとの中からピックアップ

新たな盲導犬ユニット誕生を祝して出発式を開催 一人ひとりが盲導犬への思いを語る

2023 年度に新規や代替で盲導犬と歩み始めた方を対象に、「盲導犬新ユニット出発式」を2か所で開催しました。式典には、地域の支援者も駆けつけ、共に新ユニットの門出を祝いました。

12月5日に京王プラザホテル(東京都新宿区)で開催した神奈川訓練センターの出発式には、対象者18人中15人の盲導犬ユーザーが、12月11日に富士ハーネスで行われた式典には、5人中2人のユーザーが、それぞれ参加しました。支援者や関係者が見守るなか、ユーザーからは盲導犬との暮らしぶりや気持ちの変化が語られました。

ユーザーは「通勤路の桜並木を気持ちよくグングン歩く。見えなくてこれだけ歩けることがうれしくて感動」「盲導犬がいることで気持ちもどんどん明るい方向へいく」と喜びを表現しました。「初めて盲導犬と歩いたとき、体が軽くなったと感じた」と振り返るコメントも。

ユーザー、支援者、協会役職員、みんなが笑顔で喜びあふれる式典となりました。



↑京王プラザホテルで開催した神奈川訓練センターの出発式。支援者や関係者112人が参加し、十人十色の盲導犬ライフがあることをみんなが実感しました



↓富士ハーネスで開催した出発式。支援者や関係者78人が参加し、ユーザーとの歓談の場で会話が弾む場面も。和やかな雰囲気にも包まれました

日本盲導犬協会の歩み

- 10月11日 第7回常任理事会
- 10月23日 第3回理事会・第3回評議員会合同会
- 11月22日 第8回常任理事会
- 11月30日 盲導犬慰霊式
- 12月5日 神奈川訓練センター「盲導犬新ユニット出発式」
- 12月11日 富士ハーネス「盲導犬新ユニット出発式」
- 12月16日 第9回常任理事会



↑11月30日 盲導犬慰霊式を仙台訓練センター、富士ハーネス、島根あさひ訓練センターで開催。亡くなった68頭の犬たちに感謝の祈りを捧げました。写真は富士ハーネスでの式典の様子



↑10月21日 岩手県一関市の佐藤善仁市長を訪問。ユーザー2人が地域での盲導犬受け入れ等の課題を伝え、理解促進をお願いしました

↓10月31日 福島県相馬市の立谷秀清市長を訪問。犬のワクチン接種費用の助成、日常生活用具の給付対象品目の拡充を要望しました



↑11月13日 京王電鉄が多摩動物公園駅で駅職員向けに講習会を開催し、31人が参加。協会職員が講師を務めました

第16期島根あさひ盲導犬パピープロジェクト始動 「盲導犬ユーザーの役に立つ意識でパピーを育てる」

島 根あさひ社会復帰促進センター※(以下、復帰促進センター)で昨年11月25日、「第16期盲導犬パピープロジェクト委託式」が行われました。同プロジェクトを始めた2009年からこれまで、育てたパピーは累計77頭に上ります。今期、協会から委託したパピーは、昨期と同じく3頭。訓練生(受刑者)16人が、地域のボランティアと協力しながら、およそ8か月にわたってパピー1頭を5、6人の班で育てます。式典では、復帰促進センターの蒔山貴文センター長がプロジェクトの意義を伝えた後、協会の山口義之専務理事が「ボランティアや職員が大切に育んだパピーを預けます。パピーの健やかな成長を期待したい」と訓練生を激励し、パピーを手渡しました。訓練生たちは、緊張と期待が入り混じるなか、パピーと対面して思わず笑みがこぼれます。続くパピーレクチャーでは、訓練生たちがパピーへの餌や

りや排泄管理について学んだほか、膝の上にパピーを抱いてコミュニケーションを取りました。訓練生からは、「命を預かり、ユーザーの役に立つという意識でパピーを育て、自分自身も成長したい」と力強い言葉が聞かれました。

※島根あさひ社会復帰促進センター：国と民間事業者が協働して運営する刑務所



→委託式で協会の山口専務理事からパピーを受け取る訓練生たち。生後4か月のパピーたちは尻尾をブンブン振って元気いっぱい

店舗などで働く人への意識調査から 盲導犬受け入れ拒否の原因を探る

協 会は、盲導犬の受け入れ拒否が発生する原因を探るため、昨年8月に「盲導犬および視覚障害に関する意識調査」を実施しました。全国15,000人にアンケートを行い、そのうち、店舗や宿泊施設、交通機関などの事業所で働く975人分の回答を分析したもので、協会初の本格的な事業所対象調査です。調査の結果、身体障害者補助犬法があることを「知らない」と回答したのは66.9%。同法の存在を知っていて、かつ中身をほぼ理解している人は1割以下でした。民間事業者に対して合理的配慮を義務づけた障害者差別解消法は70.5%

が「知らない」と回答。盲導犬の受け入れ義務を定めた法律への理解が広まっていないことが読み取れます。また、「今後、盲導犬ユーザーの利用を受け入れるか」に対し、「受け入れる」は52.6%。業種別だと、もっとも高かった交通機関(鉄道)で65.9%、飲食業、医療業、小売業、不動産賃貸業、生活関連サービス、娯楽業では5割を下回っています。「どちらとも言えない」は40.7%に上り、事業者の受け入れ不安解消に力を入れていく必要性が明らかになりました。調査結果の詳細は協会ホームページからご覧ください。



こちらから↑

●各センター活動報告(10月~12月)

(2024年12月31日現在)

| | 神奈川訓練センター | 仙台訓練センター | 富士ハーネス | 島根あさひ訓練センター |
|-------------|-------------------------------|------------|------------|-------------|
| 訓練・視覚障害サポート | 共同訓練 | 5回 | 2回 | 2回 |
| | パピーレクチャー | 24回 | 13回 | 5回 |
| | パピーウォーキング修了式 | 1回 | 0回 | 0回 |
| | ユーザーフォローアップ | 50回 | 31回 | 34回 |
| | 盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会 | 13回 | 13回 | 5回 |
| | 各種オンラインセミナー | 2回 | | |
| リハビリテーション | 短期リハビリテーション | 0回 | 1回 | 0回 |
| | その他リハビリテーション | 137回(141人) | 234回(312人) | 55回(217人) |
| 普及推進活動 | 受け入れセミナー | 15回 | 13回 | 7回 |
| | 小・中学生向け実演 一般向け実演・贈呈式・募金活動等 | 53回 61回 | 34回 26回 | 30回 53回 |

| メディア掲載件数 | |
|-----------|------|
| テレビ・ラジオ | 39回 |
| 新聞 | 51回 |
| WEB | 244回 |
| その他(雑誌など) | 29回 |

主な放送・掲載

10月8日 中部経済新聞 愛知県春日井市商店街連合会が盲導犬受け入れセミナーを開催し、ユーザーと職員が講師を務めた件を紹介

10月9日 NHK「みより解説」慶應義塾大学病院と協会が共同運営する「ロービジョンケア・ハブ」を紹介

10月10日 岩手日報 ユーザーと盲導犬の日常の様子や犬の管理業務について紹介。協会職員が盲導犬の訓練について紙面で解説

10月22日 テレビ若手WEB1件 職員とユーザー2人が岩手県一関市長を訪問した模様を紹介

10月31日 BSフジ「みんなでSDGs」協会の繁殖犬飼育ボランティアの活動を紹介

11月2日 福島民友新聞 職員とユーザーの福島県相馬市長訪問で盲導犬への理解を訴えたこと、市長が手引き歩行を行ったことを紹介

11月7日 愛媛朝日テレビ、新聞1紙、WEB1件 愛媛県西条市の石根小学校での盲導犬PR犬実演を紹介

11月8日 若手めんこいテレビ、新聞1紙 JR盛岡駅で実施した「鉄道の安全な利用方法を学ぶ講習会」の模様を紹介

11月17日 KSB瀬戸内海放送「佐々木蔵之介の瀬戸内旅 with 盲導犬」協会ユーザーとの旅の模様を紹介

※協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

「全国一斉盲導犬教室」開催 未来を担う子供たちと共生社会を考える



昨年10月2、3日に「全国一斉盲導犬教室」を開催しました。2021年以来、毎年富士ハーネスから全国の小学校へ生中継を行っています。今年は過去最多の220校、14,102人がオンラインでつながり、視覚障害や盲導犬への理解を深めました。

当日は、盲導犬ユーザーが触って時間を知る触読時計の使い方や、お金を区別する方法を説明したほか、盲導犬の排泄方法を実演しました。子供たちは、工夫することで、

ユーザーは見えない人と変わらない日常を送ることができる

と学びました。「ユーザーが困ってたら声をかけたい」「盲導犬が（飲食店などに）入れない社会をなくしたい」といった感想が届き、子供たちの心にしっかりと視覚障害者支援の意識が芽生えた様子が伺えました。

秋田で視覚障害リハビリテーション 自分に合った方法で、より暮らしやすく



秋田市の秋田市民交流プラザ（アルヴェ）で、昨年10月6、7日に、出張型の「短期視覚障害リハビリテーション」を開催しました。通常、期間中は参加者が仙台訓練センターに宿泊しますが、協会職員が各地へ出向くことで、その地域の方に参加してもらいやすくしようと実施したものです。今回は秋田県内から3人が参加し、それぞれの希望に合わせて白杖歩行、スマートフォンやパソコン操作、調理方法の訓練を行いました。

参加者は、iPhoneの画面を音声で伝える「ボイスオーバー」や、カメラで撮影した印刷物の中の文書を音声で読み上げる「センスプレーヤー」の使い方を学んで実践。電子レンジでの調理は全員が初めての経験で「自宅でもやってみよう」と、ゆで卵と焼きそば作りに意欲的に取り組んでいました。

「白杖でもっと家の周りを歩く訓練をしたい」との希望には、地元である秋田の白杖歩行訓練士と連携して対応していく予定です。今後も視覚障害者の希望に寄り添った支援を続けていきます。



白杖で階段を確認しながら安全に歩く練習。信号機を探すと苦にならなくなる」とうれしい感想も聞かれました。

積み重ねてきた視覚リハの現場に触れる 視覚障害リハビリテーション研究発表大会



昨年9月21～23日、東京都千代田区の日本教育会館で「第32回視覚障害リハビリテーション研究発表大会」が行われました。毎年開催されている大会で、今年



↑同時開催の機器展示の会場には26事業者が出展。拡大読書器や白杖、歩行のナビゲーションシステムなど生活サポート機器が並びました。日本盲導犬協会も事業紹介で出展

は福祉・教育・職業・医療等の分野から約300人が参加しました。テーマは「継承と前進」。これまでの視覚障害リハビリテーション（以下、視覚リハ）の実践や知見を引き継ぎつつ、スマートフォンやAIなどの最新技術で変化を遂げてきた視覚リハをさらに一歩進めようというものです。

日本盲導犬協会の職員は、大会の司会を務めたほか、運営にも積極的に関わりました。日頃の研究や成果を発表するポスター発表では3件の発表に参加。うち1件は、今年度、慶応義塾大学と協会が共同で運営を始めた同大学病院内開設の「ロービジョンケア・ハブ」に関する報告でした。

多くの来訪者が、シンポジウムや研究発表を通じて最前線で奮闘する発表者たちの実体験に触れ、視覚リハが果たす役割の重要性を再確認しました。当協会職員も先人たちが蓄積してきた経験を現場に持ち帰り、視覚障害者支援を発展させていきます。

国際盲導犬連盟の査察に合格 動物福祉の観点からも評価されました

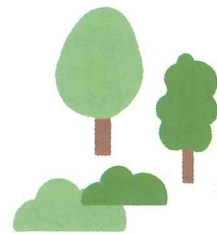
昨年11月10日から3日間、国際盲導犬連盟（IGDF※）による定期査察が行われ、アメリカの盲導犬育成団体Guide Dogs for the Blind所属でIGDFから派遣された査察官ヴァネッサ・ライエンズ氏が、訓練の様子や犬の飼育環境、職員がユーザーやボランティアに関わる様子を包括的に査察しました。



※ IGDF（=International Guide Dog Federation、国際盲導犬連盟）は、世界約30の国と地域、約100の盲導犬育成団体が加盟する組織で日本盲導犬協会も加盟。加盟するには一定の基準を満たしていることが条件で、5年ごとに査察が行われる。コロナ禍の影響で今回の協会への査察は7年ぶりに実施



←当協会の国際部、訓練部、繁殖・研究部などの職員とライエンズ氏（上段左から4番目）。協会が海外の盲導犬関係者と行っている継続的な情報交換、その情報を国内の盲導犬育成団体と共有していることなど、国際的な取り組みも評価されました



↓査察3日目、富士ハーネスの引退犬棟で。床が滑りにくいようコルク材でできていること、犬が家庭に近い環境で過ごしていることを査察官に説明しました

11月10、11日、仙台訓練センターで犬の訓練の査察が行われました。ライエンズ氏が注目したのは「交通訓練」（写真下）です。近年の電気自動車の普及に伴って、走行音が小さく危険に気が付きにくい状況が増えており、



↑査察2日目、仙台訓練センターでの「交通訓練」をライエンズ氏（右）が見守ります。前から車が近づいてきたとき、犬がいつ減速するのかを訓練士（左）が確認。個々の反応に合わせて、犬が理解しやすい方法を探り、停止することを教えます

安全面をより考慮するため、IGDFは、2020年度にこの項目の基準を更新しました。この訓練は、ユーザーが安全だと慎重に判断して犬に進む指示を出した場合でも、車や自転車が進んで来ても、犬が自発的に危険と判断した際は止まるよう、犬に教えるものです。協会では以前から行っている訓練で、査察官は興味深く見守りました。

翌12日は富士ハーネスで犬舎の査察でした。協会は、動物福祉の観点から犬たちが快適に過ごすことができるよう環境整備をしており（写真右）、ライエンズ氏からは「引退犬棟など設備も整っていて、犬が産まれてから最期を迎えるまで大切にしていることが伝わってきま



す。文化の違いが犬の福祉の捉え方にも表れていて、査察の結果としてIGDFで共有したい」とコメントが。査察では、訓練の質、犬が過ごしやすい環境づくり、国際的な活動などすべての項目について評価が行われ、その結果、協会が行っている盲導犬育成は、これまで同様、国際基準に則っていると認定されました。

スタートライン

Start Line

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2024年11月までの共同訓練卒業生



- 各ユーザーの紹介項目
- ユーザー名・居住地(盲導犬歴)
 - 盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種
 - ①共同訓練期間
 - ②パピーウォーカー名
- 犬種記号
- LR: ラブラドル・レトリバー
 - GR: ゴールデン・レトリバー

富士ハーネス

出かける喜びを実感 日々変わる状況を楽しんで歩く

松原さんは、長年、白杖はくじょうを使って生活をしていましたが、体調を崩したことをきっかけに仕事を辞め、自宅でのんびり過ごすようになりました。ずっと家で過ごしていてもダメだと思い、妻と散歩を始めましたが、毎回妻を頼ることに申し訳なさを感じるように。それでは、と一人で白杖を使って歩いたり、ウォーキングマシンを購入したりしたものの、歩くことが楽しいとは思いませんでした。

次第に、盲導犬と一緒に歩くのは楽しそうと感じ、「盲導犬と歩きたい」と思うように。富士ハーネスで盲導犬の体験会に参加し、盲導犬が障害物を避けたとき、「スーッと通過していく感じがすごい!」と感動し、盲導犬と歩くことに決めました。

共同訓練で初めて会ったとき、スキップは顔をなめ、体を寄せてきました。甘えん坊と思いきや、二人きりで過ごす部屋では、スキップはケ



↑毎朝ケージから出ると、スキップは勢いよく松原さんの元に向かい、ぐるぐる回っておなかを出して挨拶。「最初はかわいいと感じる余裕もなかったけれど、今はいろいろな表情をするスキップがどんどんかわいく感じるようになりました」

ージに入ったきり、呼んでも出てきません。訓練士に「まずはスキップに好きになってもらうことが大切」と言われ、たくさんなでて触れ合うようにしました。1週間ほど経つと、スキップは松原さんのそばでいびきをかいて寝るようになり、「心を許してくれたのかな」と感じたそうです。

自宅周辺での訓練では、散歩コースである国道沿いのコンビニまでの道を歩きました。コンビニには大きな駐車場があり、車やバイクがとまっている日もあれば、搬入用の荷物が置いてある日もあります。難所だったものの、訓練士のサポートもあり、無事に訓練を終えました。

スキップとの生活が始まったある日、コンビニの駐車場でスキップが突然立ち止まり、松原さんを見上げました。そこは、車がとまっているたら狭いかもかもしれないと訓練士から聞いていた場所です。スキップが「前に進めないよ」と知らせているのだと気付いた松原さんがスキップの後ろに立って縦一列になり、「ストレート・ゴー」と指示すると、スキップは前進。いつもと違う動きをしたスキップが何を伝えようとしているのか、感じ取ることができたのです。

今は新しい道や海岸線を散策して



松原 利光さん
富山県黒部市(1頭目)
スキップ(♂)LR
①2024.9.9~10.4
②田村 賢嗣さん

↑共同訓練から1か月後、フォローアップ訓練で「歩く速度も上がって進歩しています」と訓練士に言われた松原さん。「うれしかった」と話してくれました

います。スキップが歩道と車道の間の段差で止まらなかったときは「ストップ!」と言って道を戻り、「ここ段差だよ。ちゃんと止まってね」と伝えます。スキップは、一度覚えた道では、きちんと段差で止まるように。

「日々違う状況を楽しみながら、安心して歩きたい」と松原さん。11月には黒部峡谷を望む宇奈月温泉の紅葉をスキップと見に行きました。今年は夏に花火を楽しんだり、ゆくゆくは、新日本海フェリーに乗って、親戚が住む北海道へ行きたいと夢を膨らませています。「お出かけが楽しくて、世界が広がったと感じます」

家に来てからしばらくは、ナディが歩かずに苦労しました。毎日のDE※1やグルーミング、少しずつ歩いたりして、関係を築いてきました。自信をなくした時期もありましたが、今では毎朝ナディと一緒に5~6kmの散歩を楽しんでいます。よく歩くと、指示もしっかり聞いてくれます。1頭目のムーランとの別れはつらかったのですが、ナディのこともかわいくて仕方ありません。課題はありますが、8年間※2一緒にがんばろう!と思っています

谷 龍三さん 山梨県南巨摩郡(2頭目)
ナディ(♀)LR
①2024.2.5~2.23 ②水野 智秋さん

荒井 英俊さん
富山市(2頭目)
ジュロ(♂)LR
①2024.11.11~11.22
②齋藤 浩美さん

まじめな性格で、一つひとつ確実に仕事をこなしてくれるジュロ。共同訓練で芽生えた信頼関係が、ここ富山でも、本領発揮!一緒に歩行を楽しんでいます。自宅では、うれしくて飛び回ったり、部屋のマットでくつろいだり、おなかを見せるなどして、すっかり我が家になじんでいます。これから、どんどん生活環境を広げ、新しい場所にもチャレンジしていきたいです。ジュロと一緒に、障害者理解や盲導犬の社会啓発も進めていきたいです

仙台訓練センター

木村 久美子さん
仙台市(2頭目)
カミル(♂)LR
①2024.9.23~10.8
②広瀬 信之さん

歩行はぼっちりのカミルでしたが、はじめは甘えることもなく頑固で、「まずはスキンシップから」と共同訓練に入りました。ボールで遊んだり、DE※1で「カム」「グッド」と声をかけ、少しずつ関係を築きました。今ではすっかり甘えん坊。寄り添ってきて、私の膝に頭を乗せて寝ます。苦労した排泄もタイミングよくできるよう

に。飛行機や新幹線に乗って、兵庫県の実家や、遠くに住むユーザーのところへ行くのが、今から楽しみです

毎朝ジルと一緒に近所のラジオ体操に行っています。ジルはいつも、決まったタイミングで尻尾を振って参加してきます。家では足の間に届く甘えん坊。近所にはたくさんの散歩コースがあります。体を動かすのが好きなので、少しずつ範囲を広げてジルと出かけています。バラや金木犀の香り、カッコウやコジュケイの鳴き声など、その時期の花や鳥を楽しみます。5月になったら、ホトギスの声を聞きに山のほうへ足をのぼす予定です

高野 次男さん
福島市(2頭目)
ジル(♀)LR
①2024.11.7~11.18
②齋藤 正明さん

※1 DE: Dog Education の略。人とのコミュニケーションの取り方を教える基本の訓練
※2 8年間: 盲導犬として活動できる期間は、2~10歳の8年間が標準

神奈川訓練センター



シンバは角を見つけるのが得意。その動きを邪魔しないように気を付け、ハーネスの持ち方や姿勢も見直したことで「道の輪郭」がわかりやすくなりました。先日は駐車場に迷い込んでしまいましたが、来た道に戻るようシンバに指示すると、ちゃんと歩道まで誘導してくれて、大きな自信になりました。普段は自立した大人の雰囲気のあるシンバですが、私が出かける準備をすると「出かけるの？」といつの間にかそばに座って待っているかわいい子です

小池 康子さん
埼玉県鴻巣市(2頭目)
シンバ(♂)LR
①2024.10.14~10.25
②久保 晴彦さん



ホノとの第1日目の深夜、その冷たい鼻で起こされました。私が起きてスリッパを履くと、遊んでくれると思ったのか、部屋中を数分間走り回りました。一緒になって3週間経った今もホノは、夜中に布団から手を出したらすぐ触れる所で寝ています。5頭目にしてこんなに甘えるパートナーは初めて。歩く速度も速く、近所の人から「何をそんなに急いでいるの」と言われそうです。毎日の歩行距離も増え、来年のフルマラソン参加が楽しみです

浅見 清さん
茨城県東茨城郡(5頭目)
ホノ(♀)LR
①2024.10.28~11.8
②東 晴美さん

毎日アーチと一緒に仕事へ出かけ、終業後はスポーツクラブやマラソンサークルでリフレッシュ。月に数回、和太鼓やドラムを習い、水泳も楽しんでいます。寄り添ってくれるアーチは、ちょっとしたことでほろまず、タフで陽気でポジティブ！先日ソファに寝転んでいると、アーチが突然、覆いかぶさるように抱きついてきてビックリ。まんざらでもない私はアーチをぎゅっと抱きしめ、癒やし合った気分です。一緒に大阪へ帰郷する日が待ち遠しいです



門川 紳一郎さん
東京都東村山市(2頭目)
アーチ(♂)LR
①2024.10.14~10.28 ②小林 竜二さん

わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています



株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
http://www.intage.co.jp/

キューモニター募集
https://www.cue-monitor.jp/

盲導犬育成を支える ボランティア LIFE

ウタは幸せ振りまくラブラドル 尻尾を振ってみんなを笑顔に!

富士ハーネス
キャリアチェンジ犬
飼育ボランティア ●酒井さん一家● (愛知県春日井市)



酒 井智康さん、洋子さん夫婦が、当協会キャリアチェンジ犬(以下、CC犬) 飼育ボランティアを募集していると知ったのは、富士ハーネスを見学を訪れたときでした。二人ですぐに心を決め、その場で応募したのですが、実際にCC犬ボランティアになったのは4年後でした。富士ハーネスでウタに会った瞬間に「うちの子!」と感じたと振り返ります。

毎 日の朝晩の散歩は智康さんが担当。夕方になると、ウタは玄関で智康さんを待ちます。智康さんも、尻尾をブンブン振って出迎えてくれるウタがかわいくて仕方なく、それを楽しみに仕事から帰ってきます。どんな場所へも心配なく連れていくことができるウタ。休みの日には、ウタがたくさん歩いて一緒に楽しめるよう、自然公園によく行きます。ウタの誕生日には京都の天橋立

→ウタとの楽しい日常を定期的に協会へ報告してくれる智康さん(右)と洋子さん(左)。これまでたくさんの人に愛されてきたウタが、元気に楽しくやっているとみなさんに安心してもらっています

にも行きました。往復8kmの道のりに、さすがのウタも酒井さん夫婦もバテ気味でしたが、みんなで歩き通しました。

酒 井さんの家には、孫二人がよく遊びにきます。子供が大好きなウタはトラブルの心配もなく、一緒に楽しく遊んでいます。ウタが弟の晴大くんをペロペロなめると、3歳になるお姉ちゃんの陽菜ちゃんは、人差し指を顔の横に立てて「ウタ!」と注意します。そうやって智康さんと洋子さんの真似をする孫の姿も、キョトンとするウタも、とにかくかわいいと洋子さん。

ウ タは、洋子さんの習字教室に通う近所の子供たちのことも



↑初孫の陽菜ちゃん(左)はウタのことが大好き。二人目の孫、晴大くん(右)が生まれたばかりの頃にウタが家にやってきて、晴大くんはウタを追いかけてハイハイし、ウタにつかまり立ちして成長しました

→仲良しの犬たちと並ぶウタ。飼い主の方が開店した、大型犬も入れるそば屋さんの前で。店の看板と、「祝1周年」の文字は洋子さんが筆をふるいました



ます。稽古の際中は静かにしていますが、片付けの気配を感じると「遊んでー」と尻尾を振って机の下から出てきます。子供たちとウタが触れ合う様子を見るのも楽しみです。

パ ピー時代のウタのことは知ることができないと思っていた洋子さんですが、あるとき、ウタのパピーウォーカー(以下、PW)から、幼い頃のウタの写真アルバムを受け取りました。うれしくて涙が出たと言います。「ウタは今、自分たちのところにいるけれど、PW、訓練や犬舎で世話をしてくれた協会の職員、たくさんの人たちの愛情を受けてきた犬なんだ」と気持ちが引き締まったという洋子さん。昨年、酒井さん宅でのウタの2年間をアルバムにしてPWへ贈り、とても喜んでもらいました。

ウ タは幸せを振りまく黒ラブ。尻尾を振って喜び姿がもっと見たい」と、これからのウタとの生活も楽しみにしているところです。

大好きです。「今日はお稽古あるよ」と声をかけると自宅の1階にある教室へ行き、子供たちの足元に寝そべり

心がふれあう

Heart to Heart

「人と動物が共生する社会へ」 建設機械レンタル企業のレントが 盲導犬への理解促進に意欲



◀「これからは盲導犬育成事業に協力していきたい」と一致団結してくださった株式会社レントの岡田朗社長(前列左から2番目)と執行役員のみなさん

● 全国66事業所すべてに ● 盲導犬募金箱を設置

株式会社レントは、1984(昭和59)年に建設機械のレンタル会社として静岡市で創業しました。現在は北海道から九州まで全国66か所に事業所を構え、建設機械だけではなく、工場が必要とされる機具、検査機器からアートまでさまざまなレンタル需要に応えています。

レントが盲導犬育成事業への支援を始めたのは2018(平成30)年のことでした。日本盲導犬協会の井上幸彦会長(当時は理事長)を通じて縁がつながり、以来、当協会の法人賛助会員を継続し、すべての事業所に盲導犬募金箱を設置しています。

● レント社のアイデアで ● 盲導犬PRの機会創出

当協会の施設のうち、富士ハーネスはレント本社から近い富士宮市にあり、折に触れて同社の協力を得て盲導犬の理解促進活動を行ってきた

した。たとえば、支援開始年に開催された静岡中央ロータリークラブ主催の親子職業体験イベント。このクラブの会員であるレントから、事前に「イベントで盲導犬のことを広めましょう」と協会へ積極的な提案があり、おかげで盲導犬PR犬の実演ができました。当日は参加した親子から質問も出て有意義な場となりました。

レント主催の会合にも実演の機会をつくっていただきました。同社が毎年夏に開く事業報告会「レント会」では、ホテルの大ホール会場に大勢のレント社員や協力業者が集まります。2019(令和元)年の準備段階でレント社内から「盲導犬育成事業を多くの人に知ってもらおう。まずは自社から」と声上がり、実演に至りました。

その後、コロナ禍で状況が一変します。協会ではユーザーに届ける盲導犬が不足する心配も。そんな折、レントから「何かできることはありませんか」と声かけがあり、ひたすら消毒を徹底したい時期だったので「消毒剤

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介し

を！」と依頼。すぐにレントから大量の消毒剤が無償で提供され、育成現場の衛生管理を徹底することができました。誰もが手探りだった当時、協会が盲導犬育成を続けることができたのはこうした善意のおかげです。

● 「AI時代の盲導犬に ● 新たな役割を期待」

レントの岡田朗社長は、2021(令和3)年の就任時から、自ら富士ハーネスを訪れて夏の一日を盲導犬たちと過ごしています。来訪日には、協会職員が1年間の盲導犬育成事業を報告、その後、親子棟や引退犬棟、医療棟などを案内し、引退犬のエピソードや子犬1頭1頭がいつ生まれたかを伝えます。元より犬好きで盲導犬の存在も子供の頃から知っていたという岡田社長は「(育成だけでなく)任務を終えた引退犬もケアしたり、富士ハーネスは大変手をかけて活動している」と話します。

そして「ロボットなど技術開発が進むと、生きた者同士の共生のニーズが大きくなる。AIの普及など社会様式が変わっていく一方で、技術があればあるほど、満たされない部分も出てくる。生活の中では犬の存在は大きく、生身の生きた者同士の付き合いがあり、動物との触れ合いで喜びを感じる世界があるはず。そこに盲導犬の新たな役割があるのでは」と共生社会の将来像を語ります。



◀毎年、富士ハーネスで贈呈式を開催。今年7月2日に協会の佐野智浩富士ハーネスセンター長(右)からレントの岡田朗社長へ感謝状を贈りました

生まれました



オス2頭
メス6頭
父犬キューイ(LR)×
母犬ボム(LR)



オス3頭
メス3頭
父犬クレイマー(LR)※×
母犬ヴィセ(LR)

協会の公式ブログや
YouTubeでは
【親子だより】で
子育ての様子など
掲載中



亡くなりました

| 犬名・性別 | ユーザー名 | ボランティア名 | 死亡日 |
|--------|---------|-------------------|------------|
| ウィング♂ | 繁殖引退犬 | 桑原 弘さん 川村 綱徳さん | 2024.9.15 |
| フルール♀ | 齋藤 静江さん | 野宮 秀樹さん | 2024.9.22 |
| ハルモ♀ | 伊澤 恵さん | 星 芳則さん | 2024.9.30 |
| ジュジュ♀ | 西岡 和世さん | 岡野 庄治さん | 2024.10.24 |
| ヴィッキー♀ | 繁殖引退犬 | 一瀬 聡彰さん | 2024.11.1 |
| シルク♀ | 菊島 巧さん | 秋永 友里さん | 2024.11.9 |
| エルザ♀ | 繁殖引退犬 | 杉山 二郎さん | 2024.11.10 |
| ロジャー♂ | 大鷹 哲也さん | 梅内 康博さん | 2024.12.5 |

盲導犬育成状況

合計頭数...702頭(2024年12月24日現在)

| | | | |
|--------|------|-------|------|
| 委託前パピー | 7頭 | 繁殖犬 | 46頭 |
| パピー | 98頭 | PR犬 | 13頭 |
| 訓練犬 | 67頭 | 引退犬 | 185頭 |
| 盲導犬 | 224頭 | 繁殖引退犬 | 62頭 |

みなさんに 支えられて

9月11日~12月10日

犬種記号
LR/ラブラドル・レトリバー
GR/ゴールデン・レトリバー

委託しました

| 父犬キューイ(LR)×母犬キャリー(LR) | |
|-----------------------|----------|
| オーブ♀ | 佐藤 寛樹さん |
| オレオ♂ | 佐藤 文俊さん |
| オーウェン♂ | 長尾 浩史さん |
| オリアナ♀ | 三浦 智香子さん |
| オデット♀ | 松村 祐子さん |
| オリオン♀ | 敦澤 芳晴さん |
| オルタス♂ | 高橋 文男さん |

| 父犬ベイリー(LR)×母犬シオン(LR) | |
|----------------------|----------|
| ピト♀ | 宮崎 史子さん |
| パティ♀ | 田中 晃さん |
| ポルカ♀ | 田口 恵美子さん |

| 父犬ピエール(GR)※×母犬エラ(GR) | |
|----------------------|----------|
| ルージュ♀ | 武田 裕美さん |
| リゲル♂ | 羽鳥 陽祐さん |
| レイラ♀ | 村田 正博さん |
| リッシュ♂ | 四宮 真奈実さん |
| ラタ♂ | 井上 友季子さん |
| リーフ♂ | 井上 稔さん |

引退しました

| 犬名・性別 | ユーザー名 | ボランティア名 | 引退日 |
|--------|--------------------|----------|------------|
| ギル♂ | 村上 真理子さん | 川崎 豊さん | 2024.9.18 |
| イチ♂ | 木村 久美子さん | 柏倉 智明さん | 2024.9.23 |
| ダイド♂ | 小池 康子さん | 松森 健悦さん | 2024.10.7 |
| ベイス♂ | 門川 紳一郎さん | 鈴木 雅夫さん | 2024.10.14 |
| ケイリー♀ | 土居 恭司さん | 土居 咲也佳さん | 2024.10.17 |
| ヴァネッサ♀ | 相吉 堯春さん | 調整中 | 2024.10.22 |
| カール♀ | 浅見 清さん | 阿部 翼さん | 2024.10.28 |
| ネクター♀ | 村田 京子さん | 亀谷 みゆきさん | 2024.10.29 |
| ヴィフ♂ | 高野 次男さん | 地引 佐代里さん | 2024.11.7 |
| ローリー♂ | 荒井 英俊さん | 調整中 | 2024.11.11 |
| アリエル♀ | 山岸 加奈子さん | 石井 裕喜子さん | 2024.11.23 |
| エンター♂ | 中柴 知子さん 中柴 健一さん | 調整中 | 2024.11.24 |
| ゴディ♂ | 笠松 忍さん | 森澤 英二さん | 2024.11.25 |

※イギリスの盲導犬育成団体(GDBA)
※アメリカの盲導犬育成団体(GEB = Guiding Eyes for the Blind)からの凍結精液を使用した人工授精

みなさんと協会をつなぐ

ハーネスひろば

みなさんから届いたメッセージや協会からのお知らせなどを紹介します

編集室より

『盲導犬くらぶ』115号の「スタートライン」を読んで、ユーザーの堀江さんと盲導犬クレバーの関係に感動しました。6ページの真ん中の下のほうに「堀江さんは『私の不安やイライラは犬に伝わる、自分の考え方を換えよう』と思い、接し方を改めることにしたのです」とあります。私ならクレバーの不安やイライラの原因を探して解消する発想しか出てこないと思いました。堀江さんの柔軟な発想と行動に驚き、感動しました。これからも『盲導犬くらぶ』の記事を楽しみにしています **松山市 Y.Nさんより**

1年前、『盲導犬くらぶ』113号に私とドルチェの共同訓練が紹介されたときのこと。「読みましたよ」と何人かの知人から連絡がありました。ああ、こんなにあちらこちらで『盲導犬くらぶ』を手にかけているのだと知りました。

116号で紹介された第一貨物さんは、新人研修で仙台訓練センターに行っているとのこと。そのほかの関わりにも感謝を伝えたいと思いました。

私は小学校や中学校へ福祉教育に出かけますが、話したことが生徒さんの心の中に深く入って、そのことがやさしさになって外に出てくることをいつも願って話をしています。

盲導犬のユーザーになり、とても幸せな人生を送れていることを盲導犬育成事業に携わるすべての方にお伝えたいです。ありがとうございます。

ユーザー大堀紀子さん & 盲導犬ドルチェより



日本盲導犬協会ユーザーの会は、10月6日から8日までの3日間、広島県で研修旅行を行いました。24組の盲導犬ユニット、家族や職員など総勢42名が参加し、広島平和記念資料館や宮島を訪れました。

研修旅行の目的は、ユーザーそれぞれが盲導犬の行動管理や排泄について改めて確認すること、旅先の飲食店やホテルで盲導犬や視覚障害を正しく理解してもらえるよう、適切なコミュニケーション方法を身につけることです。また、旅先で出会うたくさんの方に盲導犬を目にしてもらい、知ってもらうことで、その地域で受け入れられやすい環境をつくるねらいもあります。3日間を通して、参加者同士の交流はもちろん、広島に住むほかの盲導犬育成団体のユーザーとも親睦を深めました。

広島平和記念資料館では、「触れる展示」で焼け焦げた瓦などを実際に触りました。宮島観光はあいにくの雨模様となりましたが、宿泊先のホテルから温かい気配りをいただきました。濡れて帰ってくることを想定し、「盲導犬も拭いてください」とユーザーにタオルを2枚ずつ準備して帰りを待っていてくれたのです。こんなにたくさんの盲導犬ユーザーへの対応はホテルにとって初めてとのこと。心のこもったホスピタリティに多くの参加者が感動しました。

旅先での新たな出会いや、その土地の空気を満喫したという声に、「みんなが楽しんでくれてよかった」とユーザーの会会長の山本さん。今後もユーザーと協会が力を合わせ、誰もが活動しやすい社会を目指していきます。

←宮島へは船で移動。船に乗っている間、盲導犬たちはユーザーの足元で伏せたり、ごろりと横になったりしていました

『盲導犬くらぶ』の感想やご意見をお待ちしております。

●あて先
公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267
e-mail: info@moudouken.net

●イベント情報はホームページやSNS上に掲載しております。



↑ ホームページ



↑ X



無理なく、続けられる

ナチュラープラス®

The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。

